



青森農研フラッシュ

(地独)青森県産業技術センター・農林部門

研究成果

念願の「特A」を取得！

水稲新品種「青天の霹靂」の特性

農林総合研究所

「青天の霹靂」は、「中生の中」熟期で、耐冷性・耐病性等の栽培特性が優れ、玄米品質が良い極良食味品種です。平成27年2月に、青森県の悲願であった、日本穀物検定協会による食味評価で最高ランク「特A」を取得しました。今年度、本格的なデビューをむかえます。

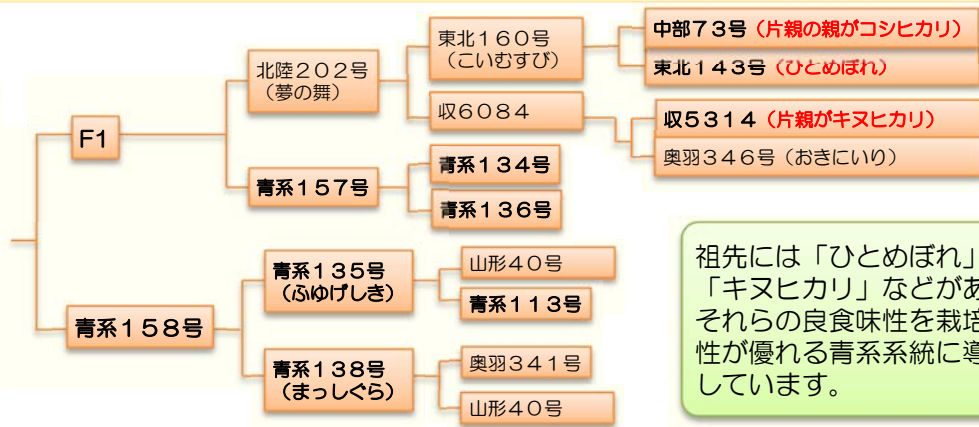
命名の由来

「青」は青森の青、「天」は遙かに広がる北の空。「霹靂」は稲妻。「晴れわたった空に、突如として現れる稲妻のような、鮮烈な存在になりたい」との考えから命名されました。

系譜



「青天の霹靂」ロゴマーク



祖先には「ひとめぼれ」「キヌヒカリ」などがありそれらの良食味性を栽培特性が優れる青系系統に導入しています。

主な特性

農林総合研究所での試験成績(平成24～26年)

品 種 名	出穂期	成熟期	耐倒伏性	いもち病抵抗性		耐冷性	穂発芽性	収量 (kg/a)	玄米	
				葉	穂				品質	千粒重 (g)
青天の霹靂	8月3日	9月11日	やや強	極強	強	強	難	65.8	上中上	22.6
つがるロマン	8月2日	9月10日	中	やや強	中	やや強	やや難	65.0	上中	22.4
まっしぐら	8月1日	9月11日	強	強	やや強	やや強	難	64.7	上下	22.8

「つがるロマン」「まっしぐら」に比べ、栽培特性や玄米品質が優れています。

今後の展開

平成27年度の作付けは約550haで、良食味米を安定供給するために、県では生産者や関係団体等が丸となった良食味米生産を進めていきます。農林総合研究所では、栽培マニュアルの作成やリモートセンシング技術を利用した良質米生産のアドバイス等、生産者等へのバックアップを行っていきます。

お問い合わせ

農林総合研究所・水稲品種開発部 (Tel.0172-52-4312)

待望の兵庫系！

県基幹種雄牛「平安平（ひらやすひら）」誕生

畜産研究所

県内に多数飼養されている「第1花国」の娘牛への交配に適した種雄牛として、「第1花国」とは異なる系統の兵庫系種雄牛「平安平」(写真1)が新たに県基幹種雄牛に認定されました。

平安平のプロフィール

登録番号：黒原5383 (82.9)

生年月日：平成21年5月22日

産地：青森県三戸郡三戸町



写真1 「平安平」

父：宮崎県の名牛「安平」
母の父：増体に優れる「平茂勝」
母の母の父：肉質に優れる「安福165の9」

父：安平
(宮崎・宮崎) 祖父：安福(宮崎) — 田安土井 (兵庫・美方) (兵庫・美方)
祖母：きよふく (岐阜・高山) — 安福(岐阜) (兵庫・美方)

母：ふくしげかつ
(岩手・北上) 祖父：平茂勝 (鹿児・薩摩) — 第20平茂 (鳥取・八頭)
祖母：やすふくとみ (岩手・北上) — 安福165の9 (岐阜・高山)

平安平の現場後代検定※成績

※現場後代検定…産子の枝肉成績から種雄牛の産肉能力を評価する能力検定

- ◆ 脂肪交雑(霜降りの度合い)と格付成績は、これまでの最高水準でした。
- ◆ 「第1花国」の娘牛との交配では、脂肪交雑の最高値(写真2)が記録されるなど、非常に優れた成績でした(本県の検定史上初)。

表 「平安平」の現場後代検定成績

項目	枝肉重量 (kg)	ロース芯 (cm ²)	バラ厚 (cm)	脂肪交雑 (BMSNo.)	上物率 (%)	5等級率 (%)
平安平 (n=16)	449.8 (13位)	61.9 (3位)	8.1 (4位)	7.8 (1位)	81.3 (2位)	56.3 (1位)
うち「第1花国」 娘牛との交配 (n=10)	465.6	62.4	8.2	8.2	90.0	70.0
現場後代検定実施済 53頭の平均値 (H14~25)	428.8	52.9	7.4	5.2	44.7	13.0

(注) 順位は、これまで現場後代検定を実施した種雄牛57頭のもの(平成14~26年度)。



写真2 「平安平」産子の枝肉断面

雌(現場後代検定調査牛)
平安平×第1花国×寿高
枝重455.0kg
ロース芯72cm²
BMS No.12
格付 A5

今後の展開

本県の基幹種雄牛の全国的な評価を高めるため、平成29年度に開催される全国和牛能力共進会(和牛オリンピック)の出品牛づくりのために、計画的な交配等を指導しています。

お問い合わせ

畜産研究所 和牛改良技術部 (TEL0173-26-3153)

カシスの枝幹害虫 スグリコスカシバを 生物農薬 バイオセーフにより防除する

カシスでは枝幹害虫スグリコスカシバの発生が問題になっていますが、これまで本種の防除に使える農薬はありませんでした。

平成26年7月23日にバイオセーフ(スタイナーネマ カーポカプサエ)が、ふさすぐり(カシス)のスグリコスカシバ防除に使えるようになったので、その使い方を紹介します。

バイオセーフとは、昆虫に寄生して死亡させる天敵線虫(スタイナーネマ カーポカプサエ)を有効成分とした生物農薬です。

処理方法

スグリコスカシバの幼虫が発生しているカシスに



茎の中にあるスグリコスカシバの幼虫

散布時期は
秋
(9月中～下旬)

- ◆線虫(バイオセーフ)の活動温度帯(15～30℃)
- ◆スグリコスカシバの幼虫の生態
- ◆虫糞の排出
- ◆カシス果実の有無を考慮した、散布に適した時期

バイオセーフの薬液(2,500万頭/25L)を



薬液に直射日光が当たらないように、黒いポリ袋などで薬液を覆います。

調整

直射日光の当たらない
場所で調整

水 25L
水温 15℃以上 30℃以下

バイオセーフ 1包装
1包装(2,500万頭入りトレイ)単位で使用

使用直前まで冷暗所で保管(約5℃)
有効期限 4か月

動力噴霧器で虫糞の排出箇所を中心に立木全面散布



散布量は成木で1～5L程度(樹の大きさに加減)



虫糞の排出箇所(○印)を中心に薬液を散布します。(虫糞を除去しないで、薬液が枝幹全体にかかるように)

雨天時の散布で効果が高い
(晴天時は効果が低い)

使用上の注意点

散布は晴天時には行わない

- ◆乾燥条件下では、線虫の活動が低下する。
- ◆小雨時、あるいは枝や幹が充分濡れている時に散布する。

薬液調整後は速やかに散布する

線虫は沈みやすいので薬液をかき混ぜながら散布

お問い合わせ

りんご研究所 県南果樹部 (Tel.0178-62-4111)

花粉症の人が待ち望む 無花粉スギの開発状況

林業研究所

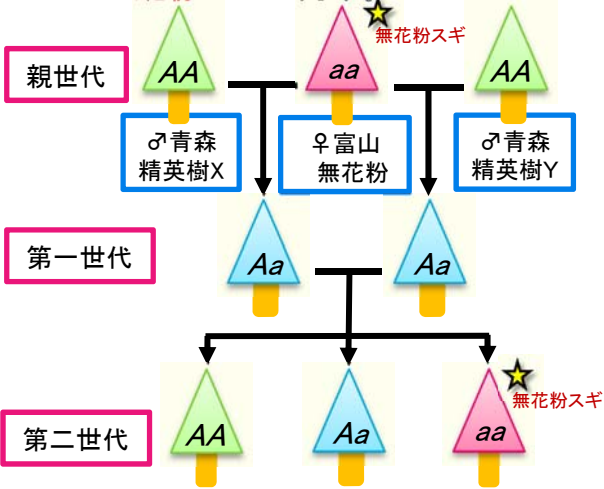
スギ花粉症は、1962年に報告されてから、その患者数は増加の一途をたどり、現在では国民の3割にも及ぶと言われています。青森県においても県土面積の2割がスギ林であり、花粉シーズンには多くの県民が花粉症に苦しんでいます。そこで林業研究所では、積雪寒冷地である本県の造林に適した無花粉スギの開発に取り組んできました。現在までの開発状況をご紹介します。



スギの分布図
(緑色部分)

県内に適した無花粉スギの開発方法

1 日本で初めて発見された富山県の無花粉スギを母親、青森県産の優良なスギ(精英樹)を花粉親とし、人工交配を行い第二世代を育成しました。その第二世代は、メンデルの優性の法則に従い、25%が無花粉スギになります。



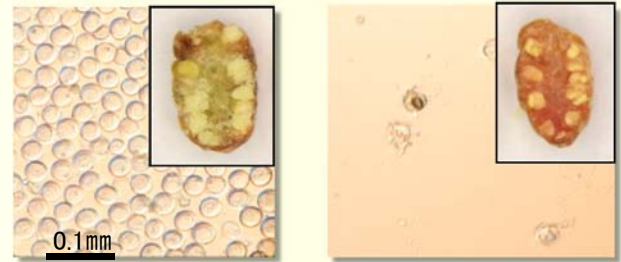
※ $[A \cdot a]$ は花粉形成に関する遺伝子型を表し、 $[A]$ は優性、 $[a]$ は劣性遺伝子とする。

2 第二世代のスギが、無花粉スギであるか否かは、種子を播き苗木に育て、植物ホルモンの一種であるジベレリンを投与し、人工的に雄花を着けさせてその雄花内の花粉を観察し、決定します。



第二世代のスギ苗

ジベレリンによる雄花



通常雄花(右上)と花粉の状況

無花粉スギ雄花(右上)と花粉の状況

成育調査による育種素材の選抜・増殖

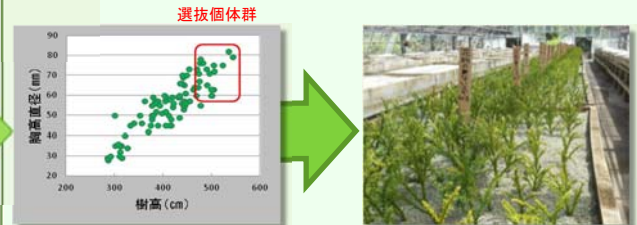
3 雄花の調査で決定した無花粉スギ88個体の中から、県内の造林に適するスギを選抜するため、実際に植栽し、5年間の成長を調査しました。



無花粉スギの植栽(H21)

植栽後、4年経過時(H24)

4 5年経過後、樹高が高く、直径が太く、曲がりの少ない20個体を選抜、さし木増殖しました。



今後の展開

現在、さし木苗を養成しており、今後、種子を生産する採種園を整備します。

種子の供給は平成33年を予定しています。

また、平成27年度から、無花粉スギのPR用として、県などの植樹行事用にさし木苗を準備しています。

お問い合わせ

林業研究所 森林環境部 (Tel017-755-3257)

ただ今研究中

ダイコンの害虫 キスジノミハムシ に対する フォース粒剤 の効果的な処理方法

野菜研究所

近年、夏まきダイコンにおけるキスジノミハムシの被害が多発傾向にあり、生産現場では防除に苦慮しています。このため、播種時の土壌処理剤として最もよく使われている、フォース粒剤の効果的な処理方法について検討しています。

キスジノミハムシとは



キスジノミハムシ成虫



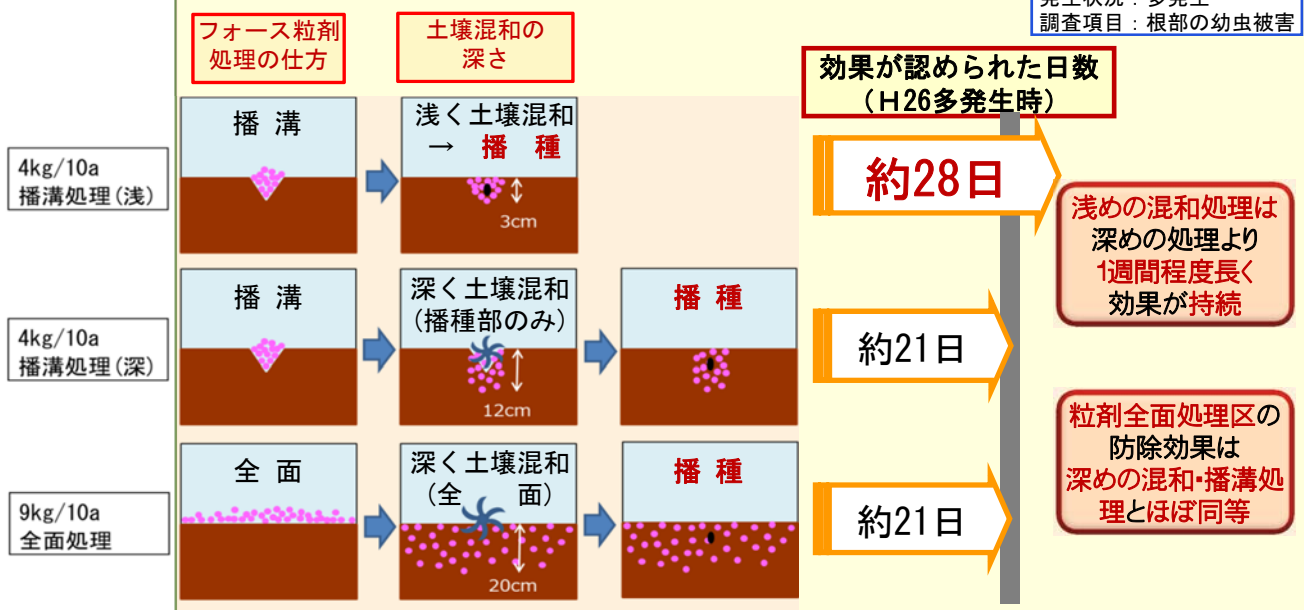
幼虫によるダイコンの根部被害

- ◆ アブラナ科野菜の重要害虫です。
- ◆ ダイコンやカブでは根部を幼虫が加害して商品価値を著しく低下させます。
- ◆ 特に6～7月播種の作型で幼虫による根部被害が顕著になりやすい傾向があります。
- ◆ イヌガラシやスカシタゴボウなどの雑草にも寄生し、発生源となります。

土壌混和の深さと防除効果(H26)

試験場所：野菜研究所圃場

播種月日：H26. 7. 7
品 種：貴 宮
発生状況：多発生
調査項目：根部の幼虫被害



効果的な防除を目指して

- ◆ 本剤は、地上部に対して防除効果がないことから、播種時の粒剤と茎葉散布を併用し、多発時には地上部の防除を遅らせないことが大切です。
- ◆ 粒剤処理後の茎葉散布のタイミング等については、今後の試験で確認していく予定です。

お問い合わせ 野菜研究所 病虫部 (TEL0176-53-7171)



編集・発行

地方独立行政法人 青森県産業技術センター 農林総合研究所

〒036-0522 青森県黒石市田中82-9

TEL 0172-52-4346 FAX 0172-52-4399

ホームページ <http://www.aomori-itc.or.jp/>